

ちいきの大学

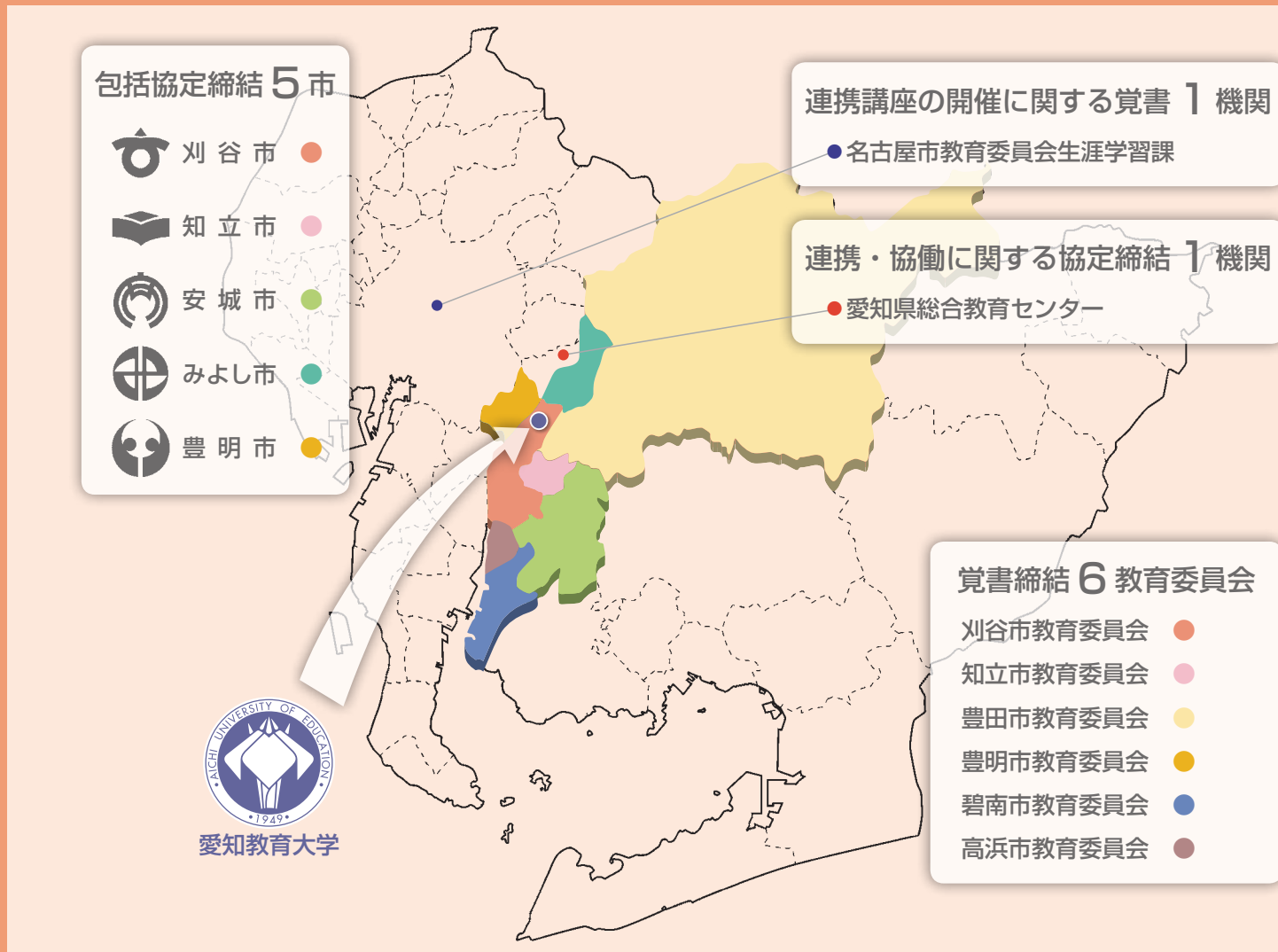
2014
春
09

Contents

- 四者連絡会 ● 愛教大フェア in 刈谷
- トヨタ博物館との連携 ● 大学と県教育委員会との連携推進会議
- 連携公開講座開設に係る打合せ会 ● 高校訪問授業の実績
- 外国人児童生徒支援の研修会 ● 土曜親子日本語教室
- 2013年スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛知地区大会へ参加して
- 大学の社会・地域貢献活動に期待



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

平安時代の歌人の在原業平が三河の国の八橋（愛知県知立市）のカキツバタ（杜若）の咲く沢で、「かきつばた」という五文字を句の上に据えて旅の心を詠んだものが「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ（伊勢物語・九段）」です。カキツバタは、愛知県の花、知立市の花とされ、本学の近隣にも「カキツバタ」の群生地があります。本学がこの地に移転して 40 余年が経過しました。草創期の井ヶ谷キャンパスで学んだ卒業生が教育界をはじめとする地域社会で活躍し、今や定年を迎える時期となっています。卒業生は、シンボルマークである「カキツバタ」を見るにつけ、自身のキャリアの中で愛知教育大学での学びが如何に重要であったかを思い浮かべます。愛知教育大学がちいきに生き、ちいきに育てられ、ちいきに愛される大学でありたいと願っています。

四者連絡会

四者連絡会とは刈谷市中心市街地活性化に向けて、本学と刈谷市、刈谷商工会議所、刈谷駅前商店街振興組合の四者が協定書を締結し、中心市街地の賑わいづくりの取り組みについて話し合いをしている会です。

2月7日(金)に駅前商店街のスペースAquaで第5回の四者連絡会が開かれました。本学から都築繁幸地域連携センター長始め13名が参加しました。刈谷の関係者は刈谷市都市整備部まちづくり推進課の長谷川明良課長補佐、刈谷商工会議所の緒方琢幹相談所係長、刈谷駅前商店街の鈴木光一理事長ら17名が出席されました。



スペースAquaを使った事業が、年間16事業延べ83日間実施されている現状が報告されました。それらの事業には本学の教員・学生・OBが多く関わっています。刈谷駅前商店街の皆さんから一層大学との連携強化を望む声がたくさん出され、本学への期待の大きさを感じた約2時間でした。

愛教大フェア in 刈谷

刈谷駅前商店街のスペースAquaで2月8日(土)9日(日)の2日間「愛教大フェアin刈谷」が開催されました。8日の朝は前夜からの大雪の影響で人形劇は中止になってしまいました。しかし、マジックサークル・アカペラサークル・吹奏楽団・訪問科学実験の学生たちが多数参加して、地元の親子連れを楽しませていました。



9日は本学の家政教育講座から生まれた食育キャラクター「食まるファイブ」の栄養バランスを考え、地元刈谷特産の切り干し大根を使ったレトルトカレーの完成・発売を記念した試食会を行われました。

カレーだけでなく、マグカップや文房具などの愛教大オリジナルグッズも販売されていました。

パフォーマンスを披露した学生は「こうして発表の機会があるのはありがたい。皆さんに喜んでもらえて、嬉しかった。今後もチャンスがあれば参加したい。」と手応えを感じていました。

トヨタ博物館との連携

2013年10月27日(日)10:00~16:30、リニモ沿線ミュージアムウィークのイベントの一つとなる「作って乗ろう!ダンボールカー工作教室」をトヨタ博物館で実施しました。小学5・6年生4名が参加したこの活動では、本学の美術選修と美術専攻の学生6名、台湾からの留学生1名、美術教育講座の教員1名が子どもたちのものづくりをサポートしました。

始めに全員でトヨタ博物館に展示されている本物の車を見学しつつ、この後制作する車に取り入れたい箇所やデザインをメモしました。その後、子どもたちが実際に乗り込むことができるソープボックスカーをダンボールで覆いながら、オリジナルボディーの車づくりに取り組みました。最後に完成した車に子どもたちが乗って、約50mの緩やかな下り坂のコースを一気に駆け抜けました。子どもたちは運転を交代して、何度も車を走らせていました。他の来場者からは大きな声援をいただき、子どもたちにも学生を始め大人たちにも、心に残る楽しい一日となりました。



大学と県教育委員会との連携推進会議

平成26年1月30日(休)に開催され、本学から都築理事が出席されました。本年度、「愛知の大学『学び』フォーラム」は26講座が開講され、452名が参加したとの報告がなされました。この講座は、県内の高校1年生及び2年生が、大学での「学び」(90分の講義)を体験して、自分の関心のあることを見つけたり、関心のある分野の知識を深めることにより、その後の進路選択の一助とするものであり、高大連携の試みの一つです。また、大学生による学校現場での学習支援の充実に向けた情報交換会の様子も報告され、今後、「愛知の学校連携ネット」を充実していくこと等が協議されました。



連携公開講座開設に係る打合せ会

この打ち合わせ会は連携協定を結んだ7市（安城・刈谷・高浜・知立・豊明・碧南・みよし）と本学との連携公開講座を開催するための事前準備の会です。

3月6日(木)に本学の大学会館中集会室にて行われました。



連携公開講座は連携各市において開催することにより、各市民の生涯学習機会の充実及び資質・能力の向上に寄与することを目的としています。平成25年度は16講座が開催され、平成26年度は15講座が開催される予定です。

各市より連携公開講座開催に向けての大学への要望等が出されました。

- ◆連携公開講座の開催講座数をもう少し増やすことを検討していただきたい。
 - ◆参加者の多くは中高年の方です。参加者から好評をいただいているので、前期に1回・後期に1回開催してほしい。本市では参加者の条件を緩和し、在住・在勤の市民対象という枠をはずして広く一般の方にしたいと考えている。
 - ◆市民のニーズに応える講座の開催を大学と相談したい。参加者増の工夫、講座内容や広報の仕方等について大学と話し合いができるとうい。
 - ◆教員向け公開講座の案内パンフレットも連携公開講座のものと同数送っていただいているが、該当の教育委員会や学校現場に送付されるとよい。
- また、連携公開講座の現状や課題についての意見交換もなされ、いろんな悩み等も出されました。
- 子育て中の方の参加に対しては、臨時保育室や託児室等の設置等、その必要性は十分に認めるところですが、なかなか難しい状況があることが分かりました。

高校訪問授業の実績

平成25年度本学の教員が高校からの要請を受け高校へ出掛けて、大学の模擬授業を実施した実績は29校でした。その内訳は次のとおりです。

- ・愛知県内の高校29校
- 三河地区17校、尾張地区5校、名古屋地区7校
- 県立高校24校、私立高校3校、市立高校2校
- 来年度も30校程度の高校で高校訪問授業を実施したいと計画しています。

外国人児童生徒支援の研修会

外国人児童生徒支援にかかる研修会として、3月10日(日)に『体験から学ぶ「外国人児童生徒の学習支援」の方法と理論』を本学で開催しました。刈谷市、豊田市、知立市、豊明市の先生方と、近い将来現場に立とうと考えている本学の学生を対象にしたものです。体験活動を通じて学習支援の方法を、また、第二言語習得の理論とを関連付けながら学ぶ機会として、宮城教育大学の市瀬智紀先生、横浜国立大学の橋本ゆかり先生、河野俊之先生、東京学芸大学の斉藤ひろみ先生、学習院大学の金田智子先生、京都教育大学の濱田麻里先生に講師等をお願いしました。会では、市瀬先生が英語による中学校社会公民分野の授業を2種類実演され、それぞれの気づきを参加者で共有し合った後で、橋本先生から指導方法の理論的な裏付けを学びました。2時間という短い時間でしたが、非常に有意義な時間でした。



土曜親子日本語教室

土曜親子日本語教室に参加している子どもは、中学生から小学校入学前の子どもまでで、それぞれの年齢や日本語の能力に合わせた学習内容を学生たちで考えています。子どもだけでなく学生の方も毎回参加するのは難しく、最初は中々子どものレベルに合った学習内容を考えることに慣れていませんでした。そこで子どもがどのような言葉でつまずいたのか、次はどのような学習内容にした方が良いのか、ということを書いた引き継ぎノートを作りました。このことにより、子どもの日本語の能力の程度や得意・不得意が格段にわかるようになりました。学生の方もどのような言い回しが子どもにわかりやすく伝わるのか分かりました。保護者の方からも「この学生は美しい日本語で子どもに話しかけてきてくれる」というコメントをいただきました。

子どもも土曜日が近づいてくると「早く日本語教室に行きたい」と保護者の方に話しているようで、この土曜親子日本語教室が子どもの心の拠り所となっていると分かっただけでもやった甲斐があったと感じることができました。日本にいる外国籍の子どもは多くは、私たち日本人が考えている以上に多くのハンデを背負っています。それらのハンデを全て取り除くことは難しいかもしれないが、子どものハンデを少しでも軽くする手伝いをこの教室では続けていきたいと思っています。

2013年スペシャルオリンピックス(SO) 日本・愛知地区大会へ参加して

保健体育講座 教授
鈴木 英樹

今年も学生の有志と一緒にスペシャルオリンピックス日本・愛知地区大会へボランティアとして参加いたしました。スペシャルオリンピックスとは、知的発達障害のある人たちの社会参加を応援する国際的なスポーツ組織のことです。そして、この地区大会は主に愛知県を中心に、スポーツ活動を行っている知的障害者の日頃の成果を発表する大会です。この大会では種目として陸上競技、水泳、バスケット、バドミントン、テニス、ボウリングが行われました。(サッカーは雨のため中止)。これらの種目は健常者と同じルールで行われ、アスリートと呼ばれる参加者は年間を通して練習を行っていることもあり、競技は真剣そのもの思わず見ているこちらも熱くなってしまいました。

今年の愛知地区大会にはSOの初代理事長で現SOの名誉会長の細川佳代子(元首相・細川護熙夫人)氏が遠路熊本から見学にお見えになりました。お付の方と一緒に飛行機でお越しになり、手配された送迎車で移動されるのかなと思いきや、何と細川氏はスタッフ用の青いフリースを着て、一人で新幹線と在来線を乗り継いで会場にいらっしゃいました。関係者の方に聞くと、いつも周りの人に迷惑を掛けないよう一人で移動し、宿泊もビジネスホテルを利用して出費を抑えているそうです。細川氏のアスリートだけでなく、その家族やスタッフにも気軽に話し掛けられている様子や、閉会での挨拶からも、ボランティア精神を窺い知ることができました。SO日本の真髄に触れる有意義な参加になりました。是非皆さんもSOの活動に興味をもっていただければ幸いです。



大学の社会・地域貢献活動に期待

特別学長補佐
一宮 登

私が考えている社会・地域貢献活動とは、公共的価値創出、継続的な専門人材育成、社会・地域の課題解決支援などによって社会・地域に資する事業や行為であります。

現在、本学が実施している社会・地域貢献活動は、地域連携センター所管の事業では、以下のとおりです。審議会等への委員派遣、講演会への講師派遣、公開講座の開設、高校へ出掛けての大学の模擬授業、教育委員会との会議や連携講座の開設、市街地活性化に向けての支援、地域連携フォーラム・講演会・研修会の実施、外国人児童生徒支援、リソースルームの開設、学校教育支援データベースの作成などがあります。これらの事業に教職員やボランティア学生・院生が数多く関わり、事業を企画運営しています。

他に、地域連携センター所管以外の事業では、教員免許更新講習の実施、小中英語教育支援、心理教育相談室や発達支援相談室の開設、留学生交流支援、訪問科学実験、ものづくり教室、天文台一般公開、サイエンスカフェの実施など、多岐にわたって展開されています。そして、忘れてはならない重要なことがあります。それは幼稚園、小中学校、特別支援学校、高等学校の教員を養成し、県内外の子どもの教育を支えているとともに、公務員や企業に就職しそれぞれの地域の有用な人材として活躍していることです。これは、社会・地域貢献活動であるとともに、本学の使命・役割でもあると思います。

大学改革の進む中、これからの大学に期待されている社会・地域貢献活動は次の三つに集約されると思います。

- ① 地域での審議会や委員会等において、施策提言や課題解決策の提案等です。
- ② 高度情報化社会に対応するための先導的研究成果の提供です。
- ③ 大学の保有する知的財産や技術・技能の提供と人材育成機能の提供です。

大学が期待されている社会・地域貢献活動を具現化するためには、地域とのパートナーシップの確立が最も大切です。そして、社会・地域貢献活動に関する全学的なネットワークを持ち、ハード・ソフト両面をコーディネートできる組織の設置が必要です。さらに地域社会や企業、自治体、NPO法人等との恒常的で持続的な連絡協議体制の整備が重要だと考えます。

Information

オープンキャンパス

2014年7月26日(土)・27日(日)

サークル紹介・質問コーナー・施設見学などが予定されています。決まり次第、大学HPに掲載されます。